なかま

OHS OG & OB TOKYO

第27号
平成19年

文武両道をめざして

校長　長谷川　光治

同窓会の皆様には、日頃より母校大湊高校の教育活動に対しまして、多大な御支援と御協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

今春の異動によりまして、退任いたしました星和夫校長の後任として、八戸南高校より赴任してまいりました。

記録的に雪の少ない冬を越しあまりにも少ない降雪から春と夏の季節がどうなることかと心配されましたが、学校周辺の豊かな自然はこの二ヶ月で、ソメイヨシノに続いてヤマザクラ、そして校門からの坂道のナナカマドに白い花が咲き、釜伏山の緑も日に日に濃さを増し、芦崎湾の水面の輝きに初夏の明るさが感じられる季節へと変化しております。生徒たちは、自然の移り変わりの中で毎日の学業生活に励んでおります。

今年、大湊高校は創立六〇周年を迎えました。平成二〇年には六〇周年記念式典を予定し、その準備に取りかかろうとしています。

人間でいいますと還暦を迎えた大湊高校は、昭和二三年に大湊高校を中心校に川内分校、脇野沢分校の三校でスタートしました。大湊高校の校章は、スタート時の三校をあらわす三つの「高」を大湊の「大」の文字でつないだものであることを、その由来説明で知りました。

六〇年間の流れの中で、昭和五三年には川内分校が県立川内高校として独立、昭和六三年には脇野沢分校が閉校となりました。設置学科も、普通科に加えて、昭和二九年から昭和三八年まで木材工芸科が、昭和三七年から平成四年まで家政科が併設されていました。

そして、本県の高等学校教育改革の推進の中で、平成一三年度より普通科が総合学科に改編され、同時に大湊中学校との連携型の中高一貫教育が導入されました。中高一貫教育については、平成一三年度から平成一五年度、平成一六年度から平成一八年度の二期にわたり、文部科学省の研究開発学校の指定を受けました。また、来年度からは川内高校が、大湊高等学校の川内校舎となります。

このように、六〇年間を概観いたしますと、大湊高等学校は時代の変化や要請で様々に変化してきています。しかし、生徒の未来を作り上げていく大湊高校の教育活動の理念は創立の頃から変わらないものと考え、職員一丸となって取り組んでおります。

また、生徒もよく文武両道に努力し、成果を上げております。

平成一八年三月の卒業生は、国公立大への合格者が二桁に達し、進学率も向上しております。各企業や地域からの信頼を得るために、またAO入試や推薦入試への対応として、服装容儀を正しくし、学校のイメージアップを図ろうと、昨年度末より保護者の方の御理解を得ながら、指導していますが、生徒もよくその指導に応えております。

今年の第六〇回青森県高等学校総合体育大会におきましても各部がよく健闘しました。ボート競技においては、六年ぶりに女子のダブルスが優勝してインターハイ出場を果たし、男子のシングルは惜しくも二位となりましたが、東北大会出場を決めております。また、ヨット競技女子は九年連続優勝ということで、今年度県高体連より特別表彰されました。陸上競技は、惜しくも男子総合二位とはなりましたが、その僅少差の活躍は、本校の立場（県立総合学科）から、県内関係者から絶賛されており、東北大会とインターハイでの一層の活躍が期待できます。よろしく応援をお願いしたいと思います。

最後に、生徒一人一人を大切にし、文武両道を目指して、取り組んで参りたいと思います。同窓生の方々の御活躍が生徒の励みとなりますので、ますますの御活躍をお祈り申し上げると同時に、より一層の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

追悼　第9代同窓会長　橘　善光さん

昭和三十一年、総監部に勤めながら夢中になっていた青年団活動の幅を広げようと思い、団員以外にも広く呼びかけて『岩波新書読書会』を作った。

毎月一回、大湊町公民館の二階の和室に集まってテーマに決めた新書について、自由気ままに話し合う会である。同窓会で二級先輩の橘さんを誘った。後に市会議員になられた共産党の新谷昭二さんや、今も青森市で市民活動を継続の門倉昇さんなど十名前後であったが、右から左まで皆二十代の血気盛んな青年ばかり。時代を嘆き社会変革の必要性を語り合って夜遅くまで議論を戦わせた。その中で一番の理論家が善光さんだった。

のちに毎月、主担当者を決め持ち回りの大学ノートに読後感や分析考察結果を記す方式を取った。あのノート、大湊のわが家のどこかにある筈である。

五月二十五日夜、本部同窓会のあと帰宅途中に自動車事故での急逝と伺い言葉なし。ご冥福をお祈りするばかり。　合掌

（副会長　佐々木彦藏　7期）

管見拙語

五月四日付け朝日新聞の「青鉛筆」というコラムにこんな記事が載っていた。◆▽青森県むつ市で3日、第60回憲法記念下北駅伝競争大会があった。47チーム398人が参加し、ちょうど満開の桜の下、10～23㌔のコースを駆け抜けた▽同駅伝は、憲法施行1周年を記念して48年から始まった。以来、同市の春のスポーツイベントとして定着している。今年は60回を記念し、優勝旗を新しくした◆母校の開校が、同じ年の5月1日であるから、この国の憲法と私たちの母校とは、ともに60年の歴史を刻んできたことになる。そして、あの「水源地の花見」の行事の一つであった駅伝が、絶えることなく続いていたことには、ある種の誇らしさを覚える◆コラムの結びの文を引用する▽開会式で吉原朋治・むつ市陸上競技協会会長は「崇高な理想を掲げる憲法に夢と希望をはせ、休止もなく運営してきたことを大いに自慢してよい」とあいさつした◆確かに「時は過ぎゆく」。それは物理的な時間であろう。しかし、それとは別に、私たちが協働して一刻一刻を積み上げて作る、言わば「人間的時間」というものもあるのではなかろうか。来年は母校の「還暦」を祝うというとき、それぞれ自分自身の思いを重ね合わせている同窓生も数多くおられることと思う◆母校は私たちにとって、言わば青春のアリバイである。母校でともに学んだ「なかま」たちは、その青春の共犯者とでも言おうか。どこにいても、いくつになっても私たちの合言葉は「私たちには大湊がある」。（C）

恩師健在　回想

八戸誠一先生

私は大湊高等学校に約20年勤務し、その間に丁度10人の校長先生に仕えました。その中で私の最も尊敬する方の一人が、第四代の南部泰先生という方でした。

先生は元来英語の先生でありましたが学識人格共に非常に高く、当時未だ若僧で「高校教師とは別の道に」と考えていた私に「このような立派な人間になり得るなら、学校の先生も悪くないかも知れない」と気づかさせて頂いた方でありました。

先生にはその言動ひとつ一つにより、校長としての責任というものを、言外に教えられたような気がします。とにかく常に生徒第一主義にと考えられ、例えば校長ともなれば普通授業を持たれないものですが、特に教務に話されて三年生の英語を持たれたり、又先生のご発案により、春に校舎をとりまく桜の下での全校生徒の豚汁会などは、今もって忘れることの出来ない楽しい思い出であります。

その南部校長は、毎週月曜日の全校集会でよく、このよい環境のもとに育ち、そして非常に優れた性質を持つ生徒の沢山いる大湊高校の卒業生からは、将来「まこと世を救うような優れた人物が輩出するに違いない」と期待と励ましを込めて強調され、それも一度や二度でなく、ことあるごとにお話しされておりました。私がある機会に「キリストやお釈迦さまでもないのに、世を救うような、とは少し大げさでないでしょうか」と尋ねたことがありました。先生は即座に「グレート ストーン フェース THE GREAT STONE FACE の主人公アーネストのような人のことをいっているのですよ」といわれました。アメリカの作家で有名な『緋文字』の著者ホーソンの『トワイス トールド テールズ TWICE TOLD TALES』という短編集の中の一つ（大きな石の顔）の主人公アーネストという少年が常々母から「あの大きな石の顔だちのような立派な人が、やがてこの村に現れるのよ」と教えられ、のちに老人になったアーネストが「その石とそっくりだ」と村人から尊敬を受けるようになった、という物語で、わたくし流に解釈すれば、宮沢賢治の例の「雨ニモ負ケズ……」の主人公と通じ、真摯に生き、他人の為に尽し、社会の一隅を照らす、という意味であれば、成程大湊高校の卒業生の数多くがこれに該当するに違いない、と改めて確信した次第であります。

大湊高等学校同窓会おひとりお一人のご活躍をお祈りしております。

【同期会だより】

第九期（昭和32年3月卒）半世紀目の同期会

斎藤忠志

六月十一日正午少し前、青森組と関東組の合計三十四名が仙台で落合った。早速、松島へと向い五大堂、瑞巌寺などを回り、遊覧船で島巡りをした後、宿へ。宴会では来し方行く末の話やカラオケで大盛り上がり。五十年ぶりの人もいて、あの彼が、あの彼女がと感心したり、驚いたり。二次会は深夜まで続いた。

翌日はバスで仙台市内見物。幹事の仙台在住、星登美雄氏の気配りの利いた企画が二日間を楽しく充実したものにした。午後一時過ぎ、ほぼ同時刻に、再会を期して南北に分かれた。

これとは別に、関東組は毎年同期会（幹事岩崎徹氏）を開催。十数名が集い、お互い元気なことの確認や懐旧談に花を咲かす。歳とともに同期会はいっそう貴重なものになってきた感じだ。

第一五期（昭和38年3月卒業）『人生これからだ』第二弾　〝花の三八同期会　秋保温泉にて〟

太田功

還暦も卒業して早三年、今回は昨年の秋に紅葉の美しい仙台の奥座敷、秋保温泉で「ゆったり・のんびり・どっぷり」と湯につかり、心身溌剌の〝リフレッシュ同期会〟を開催。これまでに年輪を重ねつつ、実に二十数回の開催を数えるが、仙台は初めて！

地元幹事の献身的サービスに大満足。メンバーは大湊・青森から十名、関東地区から八名、地元から六名が相集った。時世の折り、メンバー・品・所変えの同期会もまた楽しみのひとつ。ニューフェース五名の参加で一段と盛り上がった。

話は少し前に戻るが、最初に参加者リストを見ただけではイメージが今いち（日光の手前にあらず）わからずも、ホテルの前で会うなり〝よう来たのう〟（……にし）じゃないが、四十余年振りの再会とは思えない巧みな標準語（大湊訛り）がペラペラポンポン飛び交うさまは流石！　いつまで経っても何処かしらに昔の面影が残っているものと唯々思い起こさせられる一幕なり！

斯くして〝人生長生きが一番〟と思いつつ楽しい一日を過ごせたことに感謝あるのみ！

翌日は秋保大滝などを満喫し青葉城公園の政宗銅像前で記念撮影。お腹も程よく空き、昼食は市内の高級レストランで名産〝牛タン〟を淡々と舌鼓。この時だけは何故か？無口・平静さを装い、貪ること一時間余り…

巷では、毎年ようやるのうと女房・隣人が傍で只管嘯くもやはり同期会はいいもんだ、楽しいものぞ。これからも続けることに意義ありと自画自賛（知識浅くも絆は深し）、継続は力なりと言うが、正にそのとおり。

『柴又』じゃなく『へば又』で三々五々家路に向かうなりけり。

『集い』短信①　葛飾柴又散策

とき：19年4月8日（日）

統一地方選挙の投票日。待ちに待った「柴又帝釈天散策」の日である。快晴の新橋駅機関車広場に千葉、埼玉、神奈川から三々五々参集。都営地下鉄で東銀座・日本橋・浅草経由、午前11時柴又駅に着くと現地集合組が待っていた。5期生から13期生まで総勢三十人。恩師の立崎栄一先生ご夫婦を含め夫婦参加が四組。最初の「帝釈天」は会費5千円にお賽銭も含まれているので合同参拝。「寅さん記念館」では、古き昭和の時代の下町再現ミニチュアに幼き頃の自分を重ねて感慨頻り。桜やや満開を過ぎたが、野点の赤毛氈を横目で眺めて江戸川べりに着く。「矢切の渡し」は、全員が一度に乗れないので乗船中止、船着場のベンチに腰掛けしばし休息後、江戸寛政時代創業の割烹『川甚』に向う。4階五十畳敷きの大広間貸切。一時代前の高脚膳に並んだ名物「鯉こく」「鯉洗い」を前に、恩師挨拶、畑中会長の乾杯で、各自負担飲み放題の大宴会が始まる。「釜伏・宇田三叉路・芦崎・ロマンス座・軍需部の浜・カサブランカ……」古き大湊を知る人たちの会話がはじけ、下北訛りの単語が飛び交う。舞台にカラオケ装置があったが全員で「一分間スピーチ」となり、昔の思い出や近況報告で大盛況。歓談二時間余、名残惜しくも散会。お土産の「うな重」片手に『川甚』を出る。

参道のダンゴ屋、漬物屋、菓子屋で買い物する人、飲みなおしに居酒屋に入るグループなど、流れ解散で柴又をあとにした。（彦）

■**第七回あしざき会海外旅行**

今回は北イタリア〔四月十九日～二十七日〕（ミラノ・ベローナ・ベニス・ピサ・フィレンツェ・キャンティ・シエナ・サンジミニアーニ・アッシジ・ローマ等）を観光して参りました。が、ミラノへ着いた時、トラブル発生。スーツケースが着いていなかったのです。ミラノ空港でスーツケースを待ったのですが、今日中には無理ということでホテルへ。結局、三日目のフィレンツェまで荷物が着きませんでした。途中、添乗員さんの機転で衣類店に寄り、下着等を調達、なんとかしのぎました。

観光行程としては、数回目のイタリアでしたが、初観光の名所等もあり、そして天候にも恵まれて、最高の北イタリア旅行でした。

帰国搭乗時にも、航空会社等のストライキに巻き込まれましたが、全員無事成田に帰ってきました。

今回の旅行は大湊高校同窓会員が中心で実行致しました。次回は二〇〇八年春、観光先は欧州で企画しますので、興味のある方はご連絡ください。

なおこの会は、原則的に、オリジナル・グループツアーですので、単独団体で行動します。

TEL 03-3406-1137

畑中皓二

あしざき会・白涛展
共通シンボルマーク

■**あしざき会**

第二回『白涛展』（5期生文化祭）二〇〇六年十月二十六日から三十一日まで、むつ松木屋催場で行われました。

前回は二〇〇三年にむつアークスプラザで行われ、書・画・工芸・手芸・写真・文芸等二十九名の参加がありましたが、今回は前回を大きく上回り、三十九名の参加出展がありました。出展数も百数十点にのぼり、前回は「東奥日報」に二回、批評と記事が敬されましたが、今回も会期中に「東奥日報」に二回、「デーリー東北」に一回、報道掲載されました。

名前の『白涛展』の由来は、昭和八年生まれ、九年生まれと十年生まれの八・九・十であり hakutoten と読ませました。シンボルマークは勿論、芦崎をモチーフにしたものです。

次の第三回『白涛展』は二〇〇八年の秋に開催予定ですのでご期待ください。（koji）

連載随想

太平洋航路　ホノルルへ（一九六五年九月）

東京支部会長　畑中　皓二（第5期）

〔前号から続く〕

黒いテトロンのスーツに着替えて船室を出る。同室のハワイのおじさんはさきに行ったようだ。何しろキーは二個だから出入り自由だ。少しローリングする通路を下手な英語で挨拶しながら会場へ。今日はウエルカムパーティだ。エコノミークラスのパーティだから映画みたいな華やかなものではない。途中ですれ違った人達の服装を見れば良くわかる。パーティラウンジに入る。フィリピン人、広東系中国人、香港人、ハワイ日系人、日本の何とか青年団（後で分かったのですが短農〈短期農業研修団〉だそうでした。皆ライトグレーのスーツを行儀良く着こなしていた）、そしてアメリカ人。彼らは殆ど兵役終了（時あたかもベトナム戦争中）のような人達だ。何かうきうきした感じにも見えるし、沈んだ感じにも見える。

パーティ会場のテーブルの上にオードブル系の皿が並んでいて、グラスも置いてある。話ではシャンパン飲み放題と聞いたが、エコノミーではそんな事はないだろう。

軽装の白いシャツに肩章を付けた船長さんと士官船員達が会場に入ってきた。まばらな拍手の後、船員さんの挨拶が日系士官と中国系士官とで通訳される。ボーイ達がシャンパンを注いで行く。そして乾杯。船長さん、あちこちのテーブルに挨拶して回っている。結局、船長さんがこの席に来た時に注いでくれたシャンパンが最後。シャンパンはそれで終わりでした。話に聞くと、ファーストクラスは夜中まで騒ぐそうです。

天気が荒れていない日は、退屈さを紛らすために色んな事をする。非常時訓練、ビンゴゲーム（公海上は賭け事自由）。ビンゴゲームでは元手一弗で賞金十二弗ゲット。今では大したことは無いが、一弗が三百六十円の時代ですから、これは大儲けでした。

日付変更線祭りがあって、毎回仮装行列が定番だそうです。当日は、香港の子供で和服を着て『わらべ』というテーマの仮装が優勝で、船長賞でした。

〔次号へ〕

『集い』短信②

東京湾納涼船

とき：18年8月24日（木）夜

昨年6月の総会で、会の活動活性化のため新しい交友の場を広げようと提案があり、その第一回目として実施したのが、東海汽船、真夏の夜の東京湾納涼クルーズ。総会出席者を中心に約六十名に案内したところ28年卒から43年卒まで十九名参加。

当日夕刻、浜松町駅集合し歩いて竹芝桟橋へ。桟橋前の広場は大混雑。1千人は乗る大型客船だから無理も無い。「飲み放題」が付いて乗船料が二千五百円と格安。浴衣で参加すると更に千円値引きである。

午後7時過ぎ出航。飲食物持込禁止だが、6階まであるデッキのアチラコチラに売店があり、百円のアメリカンドックから焼き鳥、枝豆、千疋屋カレーなどつまみや弁当多種多様。Bデッキではギャル「ゆかたダンサーズ」のロックの大音響があり、還暦過ぎを忘れて両手を高々と挙げ、つい乗ってしまう仲間もいて大騒ぎ。好天に恵まれ潮風が気持ち良く、生ジョッキを重ねながら、大都会の夜景を肴に二時間、夜の東京湾周遊を満喫できた。下船後、浜松町駅ビル地階の喫茶店での反省会（？）では、来年も是非やりましょう、今度は孫を連れてくるという声なども出て、散会した。（彦）

『集い』短信③

新年賀詞交歓会

とき：19年1月10日（水）夜

ところ：品川プリンスホテル

どこの同窓会も、年に一度の総会が最大のイベントで、役員は、そのための準備会や終わった後の反省会で顔合わせする程度で終わっている。当会の場合、最近はこのほかに色々な行事や遊びの要望が多くなってきた。新年会もそのひとつであるが、2～3年に一度、役員だけで開いてきた。

今年の会場は、副会長のS・Tさん（8期）が良く利用し、昵懇にしている品川プリンスホテル三十八階の味街道五十三次『藤沢』で開いた。

今回は、この役員新年会のことを漏れ聞いた役員でない方や、大湊にご縁はあるが他校の卒業生など十名ほどの人が特別参加。

厳選された一流ホテルの和食に箸を運びながら、郷里に思いを馳せ昔話に花が咲き、この一年の無事息災を願い大変な盛り上がりをみせた。終わって地階のカラオケルーム。喫茶店での〆の三次会へと流れた。（彦）

「東京生活」アンケートNo.22

今年三月、われらが母校青森県立大湊高等学校を卒業し、進学・就職のため上京した同窓会新会員第59期生の皆さんに、初めての東京生活についてのあれこれを尋ねてみました。（返信到着順）

質問事項
①東京（首都圏）で生活してみて一番ビックリしたことは何ですか？ ②言葉の問題で悩むことはありましたか？ ③上京後、クラスメートに何回会いましたか？ ④毎日の仕事（又は学校）は、きついですか？ ⑤今の仕事（又は学校）をかわりたいと思ったことがありますか？ ⑥田舎に帰りたいと思ったことがありますか？ ⑦大湊高校時代で一番印象に残っていることは何ですか？ ⑧母校の後輩に言いたいことは？ ⑨いま一番会いたい人は？ ⑩その他、どんなことでも……。

■佐藤礼香（埼玉県川口市）
［東京商科学院専門学校／品川プリンスホテル］
①駐輪料金。②意外と寮に青森の人が多くいるので、大丈夫でした。③1回。④かなりハードです。8:30～16:30まで働いて、21:00まで学校なので、平日はキツイです。⑤1回だけある。⑥毎日、思ってます。⑦文化祭など。⑧勉強も部活も頑張ってください。⑨地元の彼氏さん。⑩一応、元気で頑張ってます。

■佐々木春香（さいたま市）
［さいたま市立高等看護学院］
①人の多さ。②特になし。③0回。④ふつう。⑤まだない。⑥ある。⑦友達と楽しくすごした毎日。⑧一人暮らしは大変です。⑨友達。

■中居建臣（東京都豊島区）
［武蔵野調理師専門学校］
①人が多い。②ない。③1回会った。④楽しいです。⑤ありません。⑥学校に慣れないうちは帰りたいと思いました。今は大丈夫です。⑦部活動（野球部）⑧「あいさつ」「礼儀」はきちんとしましょう。⑨母。

■長尾笑里（東京都豊島区）
［豊島医療福祉専門学校］
①人が多いです。朝の電車の中は、想像以上でした。②少しナマッているね、といわれましたが、特に問題はないです。③一度もあってないです。④学校はキツくありませんが、朝、電車の時間の関係で早く起きないといけないので、そこがキツいです。⑤勉強は大変ですが、毎日が充実していて楽しいです。なので、かわりたいと思ったことはないです。⑥たまに思うことがありますが、夏休みなど、帰るときまでの楽しみと考えるようにしてます。⑦文化祭と部活動ですね。みんなで協力しあった文化祭と、県大会に出場できた部活動は忘れられないです。⑧高校の三年間は、たった一度しかないので、後悔のないように過ごしてほしいです。⑨家族にも会いたいですが、青森にいる友達に会いたいです。

■大西一也（東京都武蔵野市）
［関東リハビリテーション専門学校］
①満員電車のすごさ。②方言が通じなくて大変です。③同じ学校に一人いるので、その人以外会っていません。④正直、キツイです。今は慣れました。⑤あります。けど、一時的だったので今は楽しくやっています。⑥あります。実家でゆっくりしたいです。⑦全てです。クラスのみんなで、学校のみんなでやったことが今でも一番の思い出です。⑧ゆっくりできるのは高校までです!!⑨…彼女（笑）、いや、友達です！⑩山下先生、結婚おめでとう!!お幸せに。（笑）

■駄賃場　汐（東京都町田市）
［桜美林大学］
①5月で30度越え…。溶けちゃう。横浜線、人身事故多過ぎ！②訛ってないんで♪大丈夫！③バイトがあって会えません…。④全然◇。サークルもあって超楽しいです。幸せです♡⑤一度もない!!⑥ストレスが溜まると海や山が恋しくなります♡⑦卒業式、みんなで号泣した時（退場で）ね!!元33HRのみんな！⑧規則厳しいらしいけど、高校の方が自由かもよ。⑨石戸裕朗。⑩ボート部、頑張ってますか？合宿行けなくて残念でした。でも一本一本頑張って！ご結婚される先生もいらっしゃるようで♡（笑）おめでとうございます◇。東京にお越しの際は、「月亭町田店」へ、是非いらしてください！

■黒島優香（埼玉県春日部市）
［東京ビューティアート専門学校］
①電車が満員。②方言がバラバラなので使い方に悩んだ。③1回。④最初は慣れるまで大変だったけど、もぉ大丈夫。⑤ない。⑥ある。⑦3年の体育祭。⑧高校時代を楽しくすごしてください。⑨両親。

■寺嶋拓也（東京都葛飾区）
［中央医療技術専門学校］
①水を買わなければいけない。②特にないです。③4～5回。④楽しいです。⑤ないです。⑥あります。⑦文化祭です。⑧東京で水道の水を飲むとお腹壊すので気をつけて下さい。⑨さおり先生。

■加賀　正（千葉県市原市）
［帝京平成大学］
①人の多さと意外に温かい東京の人達。②なまっていると言われたが特に問題ない。③0回。④楽しい。新しい発見と日本各地の友達ができる。⑤なし。⑥毎日ある。⑦部活動（硬式野球部）⑧3年生の皆は、今進路に悩んでいると思います。しっかり決めて後悔しないようにしましょう。⑨おかんと彼女とときどきおとん。⑩千葉は東京まで一時間なので便利ですよ。あと千葉はなかなか自然もあって、地元を思い出します。以上、ジョンカビラでした。

■三國　礼（東京都新宿区）
［明治大学］
①買い物する場所によって、物価が全然違います。②全くありません！！むしろ「訛って～」とか言われます。③2回。④学校生活そのものは楽しいですが、朝起きれないと焦りまくります…⑤ありません。今の学校に入学できて良かったです。⑥今のところ大丈夫です。⑦耐久遠足……。あれを思い出すと、少しくらいのことでは挫ける気がしません。⑨桜木町の祖母。

編集後記

■新校長の長谷川光治先生からは、私たちがこれまで知らずにいた母校誕生の経緯を、校章の由来（デザイン）とともに、今回初めて教えて戴きました。
■私たちが、その温厚なお人柄を敬愛してやまない八戸誠一先生の「回想」は、ホーム・ルームの時間に、先生の含蓄ある講話を聞く思いがしました。
■大湊（そして広く下北）に縁のある方々との交流を図って企画された「集い」。スペースの都合で写真を割愛、一枚だけ。
■時間がなかったのにもかかわらずアンケートの回答を寄せてくれた新卒者の皆さん、ありがとうございました。絵記号が違っていてご免なさい。（C）

発行　青森県立大湊高等学校同窓会東京支部
編集　富澤千里（16期）
題字デザイン　畑中皓二（5期）
事務局　〒二七三－〇〇四一　千葉県船橋市旭町六－三－一－一二〇
局長　蝦名守一（16期）　☎〇四七（四三八）七八五六
印刷　有限会社戸田印刷

東京へ下北を贈ろう！
なまこ・ほたて・菜の花商品・海産物全般
有限会社 すぎやま
青森・下北ふるさとの会
青森県上北郡横浜町字大豆田 127
TEL0175-78-2080・FAX0175-78-6051
URL:http://www.rakuten.co.jp/aotoku/
E:mail.sugi@jomon.ne.jp
MyE-mail:toru0629jp@yahoo.co.jp
代表 杉山 徹 第22期生
Travel Plaza SUN・SHINE
Aomori-Pref Yokohama
本州のテッペン下北半島

むつ の便りは やなぎや のお菓子で・・・

YANAGIYA
●田名部ばやし
●おおみなと
●フライボール
●寒立馬サブレ
●他銘菓各種

緑町本店 むつ市緑町 17-58
TEL 0175-28-2880
金谷店 むつ市金谷 2-7-11
TEL 0175-23-6720
URL http://o-yanagiya.jp
代表 柳谷 一雄 第五期生

なかま

OHS OG & OB TOKYO

第26号
平成18年

陸上競技部が県高校総体で初優勝!
野球部が県春季大会で第三位!

校長 星 和夫

例年より一、二週間遅く訪れた春も終わり、新緑の季節となりました。

同窓会東京支部の皆様には日々ご活躍のことと存じます。また、日頃より本校の教育振興に対しましてご支援とご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

本機関紙の校内担当者から原稿の依頼があったのは一ヶ月以上も前でしたが、五月末の締切り日まで書かないでおりました。実は、原稿締め切り日頃に陸上競技の県高校総体及び硬式野球の県大会準決勝、決勝が予定されており、その大会結果に予め期待が持てたので、結果を待ってからと考えていたからです。

ここで、両部の大会結果をご報告したいと思います。まず、陸上競技部についてはここ数年着実に実績を伸ばしており、昨年の県高校総体では男子総合で第三位、昨年秋に行われた県新人戦では、男子総合で見事初優勝を飾ることができました。それ以来の大会で、今回は新人戦とは違い、全学年での最大の県内大会でもあり、この高校総体で優勝を飾ることが当面の最大の目標でもありました。

例年より雪の多い冬で、条件の悪い中で練習を積み重ね、さる五月二十五日から二十八日の高校総体に臨んだのですが、個々の成績を見ると、それぞれが昨年以上の活躍をしてくれました。主なものをあげると、男子競技の走高跳、走幅跳、棒高跳、混成八種、一一〇mH、四×一〇〇mRの各競技で第一位、その他多くの上位入賞を飾り、総合で初優勝を獲得することができました。

今回は五十九回目の大会でしたが、下北地域では初めての優勝であり、本校のみならず下北全域の喜びでもありました。今回優勝できたのは、県陸上競技協会の会長をなさっておられるむつ市長さんをはじめ、多くの市の陸上競技関係者のご指導、ご支援があったからこそと感謝しております。

なお、陸上競技部は今回の高校総体の結果、多くの選手が六月に岩手県で行われる東北大会に出場することが決まり、現在東北大会に向け、練習に励んでいるところです。

一方の硬式野球部ですが、昨年は県春季大会でベスト四に進むことができ、その後の大会での活躍が期待されたのですが、夏の甲子園予選の直前、それまで二十数年にわたり、熱心にご指導いただいた富岡監督さんが急逝され、悲しみを乗り越えての甲子園予選大会でした。残念ながら、選手諸君に勝たなければとの気負いがあったためか、前監督に勝利を報告することができませんでした。

六月に青森市で行われる東北大会に出場も決まり、現在富岡監督の遺志を引き継いだ工藤公治監督の下、東北大会、及び七月に行われる甲子園予選に向け頑張っているところです。

陸上競技のほか、サッカー及びヨットが六月の高校総体に先行して五月末に行われましたが、サッカーは県内強豪チームと初戦であたり、敗退してしまいました。ヨットは、県内では現在本校のほか青森工業高校にしかなく、二校の争いでしたが、男子は残念ながら青森工業に敗れてしまいました。男女とも現在、六月に福島県で行われる東北大会に向け、練習に励んでいるところです。

硬式野球部や陸上競技部の華々しい活躍でスタートした今年の県高校総体ですが、六月初めに行われる他の競技の活躍にも期待したいものです。

本校は、以上述べましたように、近年特に部活動での活躍が目覚ましく、地域からも注目されておりますが、平成十四年度から始まった総合学科も今年三月には二回目の卒業生を出し、総合学科の特色を生かした本校教育も定着してきた感がします。

今年度は、特に部活動面での成果だけでなく、高校教育の根幹である学習面での充実も大切と考え、昨年より週の授業時間数を一時間増やし、学習面での成果も期待しているところであります。

今後も生徒の能力と可能性をさらに伸ばし、地域や父母の皆様の期待に応えるような学校経営に努めてまいりたいと思います。同窓会東京支部の皆様には、今後とも変わりませぬご支援ご協力を賜りますようよろしくお願いします。

カタカナ造語を考える

東京支部会長 畑中 皓二

最近カタカナ造語が増えて、まごついているのは私だけでしょうか?古くはマネービル、サイドビジネス等(日本造語)。また、外国語の単語としては存在するのですが、本来の意味とは全く違った意味に使われている、マンション、アルバイト、フリーター等、まだまだ沢山あります。

例えば「私は六畳と四畳半のマンションに住んでいます」と言ったとしたら、これは笑われます。Mansion の本当の意味は最低五部屋ぐらい以上の客室がある豪邸のことを言うのですから。今の日本語を皮肉ると「木造の古いマンションがアパートで、鉄筋等の綺麗なアパートがマンションだ」と言っているようです。

アルバイト(Arbeit)も本来はドイツ語で、労働、仕事のことです。学業のほかに仕事をするという意味では合っています。

サイドビジネス、これも造語で、英語ではSide job です。

フリーターと言えばモダンな感じですが、正しい日本語は「日雇い労働者」であり、このカナ文字も造語です。本当はPart-Time-Worker です。日本で言っているパートタイマーは英語では Temporary = Temp と言っているようです。日本語では「時給労働者」であり、カタカナだから格好が良いとは思いません。

因みにニートNEET (Not in Employment or Training) は日本語で昔から「脛齧り」と言っております。

これから日本も国際化が進み、造語も悪いとは申せませんが、世界で通用する言葉つくりが必要かと思います。

若い同窓生の方々に、先輩同窓生として申し上げておきます。学業に勤しむ方も、社会人として活躍される方も、学業、就職が決まっていない方も(ニートはいけませんが)、時給労働者でも、日雇い労働者でも、当面の収入が少なくても、少しぐらい遠回りをしても、無駄のない経験を積まれて、本来の目標に突き進むことを祈っております。

【同期会だより】

第六期（昭和29年3月卒）上野の山で同期会

佐々木　彦藏

六十歳代半ばまでは一年おきに同期会を開いていたが、毎年のように亡くなる人が出始め、お互い身辺淋しくなり、毎年開こうということになった。

ここ四～五年は、三沢、熱海、札幌と回り、去年は七年振りに郷里大湊で開催。今年は九月二十五日に仙台の奥座敷、秋保温泉『緑水亭』で開催と決定した。

古希を過ぎ皆年金生活で時間たっぷりの毎日。年一回では物足りず、関東地区に住んでいる仲間だけでも時々会おうということになり、昼食会もやっている。

永田町の日比谷高校同窓会館［星陵会館］で食事をして国会見学をしたり、ディズニーランドにあるヒルトンホテルに、千葉在住の大湊中学時代の音楽の恩師三上先生をお招きし、五十三年ぶり、感激の再会も果たした。

去年の秋は、横浜中華街に集合し山下公園・赤レンガ倉庫・みなとみらい散策としゃれ込んだ。

今回は、三月二十九日、西郷さんの銅像前で落ち合い、満開の桜の下で盃を交わした。日本野鳥の会の役員会で上京の古川博君も急遽参加、総勢十二名と少なかったが、最後は浅草まで足を伸ばし、昔懐かしい「神谷バー」で『電気ブラン』で乾杯てな具合。

この秋には、柴又帝釈天にお参りし「矢切りの渡し」に乗って、川魚料理を味わおう。来春は川越の喜多院で花見をしようなどと、暇な連中からの提案しきりで、世話役としては嬉しい限りである。

第一五期（昭和38年3月卒）人生これからだ！〝花の三八期同期会開催〟

太田　功

春の訪れが待ち遠しい去る三月一八日（土）関東支部主催の有志による同期会を三年ぶりに東京で開催した。（因みに前回は福島県飯坂温泉一泊の集い）

当日は、大湊から坂野井真弓さんも参加し、暇人の男性五名と多忙極まる？女性七名が参加し、久しぶりに旧交を温める事ができた。

卒業後早四十三年、還暦の祝いも過ぎたのに相も変わらぬ若々しさに、互いに顔を合わせてビックリ箱……（本人のみぞ知る満足感）

和気藹々の雰囲気の中で会話が一段と弾む……〝ちょっとタイマー〟笑顔が一番の中、お互いの顔をよく覗き込むと、そこには隠せない熟年の貫禄（皺もそれなりに深まり）があり、これも人生の経験の豊かさか……う～ん、やっぱり年相応なりと安堵感が漂う！

会話も初めのうちは、校門の桜並木と芦崎湾の景観がすばらしかった学生時代の話に夢中になるも、話題はいつしか健康の維持、増進と老後生活のエンジョイに転換・集中・充実！

人生八十年これからだ（どこかのコマーシャル？）。気力・気合・精神力でお互い長生きすることを誓い合い（若い人には我々の世代を支えるのは大変だなぁ……と思いつつ）年金生活の話へと移行する。

二次会は、足取りも軽く昔懐かしい喫茶店へ直行！　約一時間半、ケーキとコーヒーに舌つづみ、話はいよいよ佳境に入り最終ラウンドへ

次回、今年秋の仙台開催（一泊二日）での再会を約束し、三々五々、家路に向かうことに！

〝花の三八同期会永遠なれ〟

第一六期（昭和39年3月卒業）還暦同期会

富澤　千里

昭和二〇年（酉年）と二一年（戌年）生まれの「還暦記念同期生の集い」が四月二十九日、むつ市のはねやホテルで開催された。当日は、六人の恩師（岩佐昭子先生、斎藤忠孝先生、佐々木尚郷先生、八戸誠一先生、林和男先生、福原弘之先生）にお運びいただき、「還暦」同期生の方は、遠く広島、富山、新潟、静岡からの出席者を含め、七十四名が久しぶりに一堂に会すことができた。

「集い」は、田名部大覚院渡辺宮司による還暦記念祈祷のあと、会場に用意された臼で餅つき、そして参加者全員で記念撮影。ここで、宴に先立ってこの日、共に集うことのかなわなかった二五人の逝去された仲間に黙祷を捧げた。

あとは皆様ご想像のとおり。中学時代、高校時代の思い出話ばかりか、今初めて聞く話もあり、近況報告から健康相談、趣味の話から孫の話まで、話題は尽きることなく、二次会の会場まで続いた。

昨年から何度となく打ち合わせの会を重ねて来た地元の幹事さんと世話人さんには感謝の言葉もない。企画から準備、そして当日の運営まで、気遣い心遣いの行き届いた「集い」であった。

更に、翌日にも催し物が用意されていた。宇田の水源地での花見である。佐々木彦藏さんが昨年『なかま』に書いておられたが、水源地は今はすっかり整備された水源地公園となり、貯水ダムの奥のかつての雑木林は格好の散策路となっていた。

参加者二十六人は、ここでも学生時代のエピソードを披瀝し、ホテルで準備されていた昼食会の時間ぎりぎりまで、蕾がようやく膨らみ始めた桜の木の下での語らいに花を咲かせた。

幹事のもとには、参加できなかった同期生から、記念写真や名簿の送付の希望が寄せられ、また、参加者の中から、五年毎では間が空き過ぎるので、早めに次の同期会をやろうとの提案が相次いだ。この集いを楽しみに一年間頑張るのも悪くない。

管見拙語

年齢を重ねるにつれて、故郷の心理的距離が縮まってくる。新幹線が通ったからということもあろうが、今のこの自分を形作っているものの核に、大湊で仲間たちと過ごした、言わば「共有された時間」があるからではないのか。▼先日読んだ本の中にこんな一節があった。「記憶は自分だけのものじゃない。人と分かち合ったり、確かめ合ったりするものでもあり、生きていく上での大切な約束事でもある」（『明日の記憶』）。思い出だってそうである。そこまでの時間の長短にかかわりなく、私たちが「昔の話」を繰り返して飽くことがないのは、それが自分の存在を確認する作業なのだからであろう。▼「思い出」は、単なるノスタルジーとは異なり、個別的であり具体的である。なぜなら「思い出」には必ず「そこに居合わせた人」がいて、その人をぬきに、私たちは何事も思い出せないからである。だから私たちはだれかれの見境なく思い出を語ることはしない。▼故郷を懐かしく思うのは年齢に関係がないとしても、年とともに何かと気になることが多くなってくる。青森は、下北は、むつはと。全国紙のニュース欄でもテレビの番組欄でも、故郷に関わりのある文字は、直ぐに目に飛び込んでくる。同じような感じを持っている方がおられるのではないか。▼私たちの「命」に故郷が住み着いていることに気づくには時間が要る。（C）

「東京生活」アンケートNo.21

今年三月、われらが母校青森県立大湊高等学校を卒業し、進学・就職のため上京した同窓会新会員第58期生の皆さんに、初めての東京生活についてのあれこれを尋ねてみました。（返信到着順）

質問事項
①東京（首都圏）で生活してみて一番ビックリしたことは何ですか？　②言葉の問題で悩むことはありましたか？　③上京後、クラスメートに何回会いましたか？　④毎日の仕事（又は学校）は、きついですか？　⑤今の仕事（又は学校）をかわりたいと思ったことがありますか？　⑥田舎に帰りたいと思ったことがありますか？　⑦大湊高校時代で一番印象に残っていることは何ですか？　⑧母校の後輩に言いたいことは？　⑨いま一番会いたい人は？　⑩その他、どんなことでも……。

■山本詩織（神奈川県相模原市）
［日本工学院八王子専門学校］
①特になし。②特になし。③五回以上。④朝の満員電車はつらい。⑤特になし。⑥ある。⑦修学旅行・球技大会。⑧特になし。⑨地元にいる彼氏。⑩特になし。

■福島達也（栃木県さくら市）
［東洋パラメディカル学院］
①栃木の宇都宮はかなり都会だけど、今住んでるとこは、むつよりいなかでビックリ。②むつよりなまってる。③渡部塁とは、毎日会ってます。④正直キツイです。⑤全然思いません。⑥毎日思ってます。⑦全部が思い出。⑧必死こいて頑張ってもらいたい。⑨加藤あい。⑩最近ものすごく天気が悪くてテンション上がらないもので、早く夏になってほしいと思います。

■匿名希望
①人の多さにビックリした。特に朝の満員電車はいつもビックリしてる。②そんなにないけど、イントネーションや東京では使わないことを言ってしまうと相手に伝わらないことがあった。③四、五回会った。けど、あまり会えない。④きついです。私は服飾学校に通っていますが、課題の量がはんぱじゃないです。たまには寝れない日があってきついです。⑤それはないです。むしろ良かったと思ってます。⑥きつくなってしんどいなぁと思う時に帰りたくなります。⑦大事だった友達のこととか、皆で色んなことをした日々。⑧自分が生きたいように生きてください。⑨ストレスを発散したいので、私のはなしを聞いてくれる家族と友達。⑩お金が欲しいです!!

■丹美絵子（神奈川県相模原市）
［町田デザイン専門学校］
①人口密度。②特にありません。③〇回。④いいえ。⑤ありません。⑥高校時代に戻りたいと思ったことはあります。⑦友達とのおしゃべり。⑧どこにいても助け合える友達をつくっておいた方がいい。⑨一番仲の良い友達たち。

■坂本千恵（東京都板橋区）
［帝京高等看護学院］
①満員電車、人々の礼儀の悪さ②特にありませんでした。私の方が反対に地元の方言などを教えたりしました。③五回以上。④けっこうハードです。⑤毎日楽しく過ごしているので、かわりたいと思った時はないです。⑥クラスメートと会った時、田舎の話や高校時代の話で盛り上がり、帰りたいと思ったことがあります。⑦クラスで過ごした毎日!!あとは何と言っても三年生の行事です⑧三年間はあっという間です!!自分のやりたい事はきちんと果たし、悔いの残らないようにして下さい。⑨高校の時の仲の良い友達、家族…。

■林　雪乃（東京都大田区）
［養老乃瀧新橋駅烏森口店］
①ゴミの分別の細かさ。②特になし。③会ってない。④正直、きつい…朝早くから出勤で、夜遅くまで勉強で、どうしても授業がねむくなる。⑤ない。⑥毎日、思ってる。⑦毎日のなにげない生活。⑧中途半端な気持ちで東京に来ても生きていけるけど、そのあとが大変だと思う。⑨おばあちゃん、おかあさん、友だち、先生、先輩。⑩学校を普通の昼間部にすればよかったぁってつくづく思います。夜間って本当に大変。

■平野公盛（東京都新宿区）
［武蔵野調理師専門学校］
①交通がとても便利です。②細かい発音以外は問題ないです。③3回。④いいえ。楽しいです。⑤何回もあります。⑥2回あります。⑦通学が大変でした。⑧頑張ってください。⑨友だち。⑩東京はそんなに怖いところとかそんな感じがありますが、そうでもないです。

■齋藤　渚（東京都江戸川区）
［東京福祉専門学校］
①ガス代が高い。②ないです。③3回。④そこそこ。⑤何度かある。⑥何度かある。⑦友達と遊んだこと。⑧進路選びは慎重に。⑨地元の友達。

■二本柳　恵（東京都台東区）
［満天酒場］
①人が多い。冷たい。②ないです。③二、三回。④時間が足りない。もっと働きたい。⑤まだないです。⑥たまにあります。⑦何げない一日一日。⑧自分のやりたい事をやった方がいいですよ！⑨犬。⑩思ってたより東京はヒドくはないです。でも、やっぱり「むつ」がいいかな、とよく思います。

随想

太平洋航路　ホノルルへ（一九六五年九月）

東京支部会長　畑中　皓二（第5期）

〔前号から続く〕横浜出航二日目。日本近海を過ぎると、揺れが始まり、船酔いは軽くなったがうねりが大きく、軽い眩暈を感じる。

朝食はパンと牛乳、ハム、野菜サラダなど、アメリカン・スタイル。今夜は船長主催のウェルカム・パーティー。

二日目なのにまだ落ち着かない。同室のハワイの人と話したり、デッキを散歩したり。もはや太平洋は八方陸なし、海また海。

船のエンジンが甲板に鈍く伝わる。

駐留軍の帰還兵のような中年の白人が三人、早口の言葉で談笑している。何を話しているか、全く通じない。その中の葉巻をくわえている、中年の頭の薄い、人の良さそうな彼と話をする。

「どこから？」

「東京から。あなたは？」

「カリフォルニア、サンタバーバラから」

英語はこの程度。あとはまったくチャランパラン。

遊戯室に行ってみる。広東系中国人が、でっかい声でマージャンをやっている。兎に角うるさい。少し離れたところに居所を確保して、サンフランシスコ上陸のことを考える。上陸まで少しでも会話を練習しなくては、折角航空機をやめて客船にしたのに、気が小さくて、会話の練習相手が見つからない。

日本人とは会話を避ける。同室のハワイの人、日本語が下手だったらと悔やむ。その人、人種はまったく日本人だから致し方ない。

夕食までの時間つぶしに昼寝をする。

パーティータイムの鐘の合図をしながら、ボーイが廊下を通り過ぎて行った。

〔次号へ〕

ご存知でしょうが

『長寿』のお祝い

我が母校も昭和二十四年に第一期生十名が卒業してからすでに半世紀を超え、この春卒業の第五十八期生までで卒業生の合計が一万三千九百三十三名になったそうです。

通常、十八歳で卒業ですから一期の大先輩は、おめでたい『喜寿』前後の年齢になられます。

そこでよく知られている長寿節目のお祝いを調べてみました。

還暦……数え年六十一歳
六十年で再び生まれた年の干支に還るところから。

古希（古稀）……数え年七十歳
杜甫「曲江詩」の「人生七十年古来稀なり」から。

喜寿……数え年七十七歳
「喜」の字を草書体にくずすと七十七に見えるので。

傘寿……数え年八十歳
「傘」の略字が八十と読めることから。

米寿……数え年八十八歳
「米」の字を分解すると八十八となるところから。

卒寿……数え年九十歳
「卒」の俗字「卆」が九と十から成り立っているので。

白寿……数え年九十九歳
「百」の字の一を取ると「白」になるから。

これでいくと、今年は、昭和十二年生まれ（八期）が『古希』、昭和二十一年生まれ（十七期）が『還暦』ということになります。

昔と違って今は、還暦はもとより古稀でも現役バリバリですから、せめて『喜寿』以上の会員は、総会の会費を無料として祝意を表しては如何。（彦）

母校だより

■今年は、昭和四七年から五〇年まで本校で勤務されていた工藤経幸教頭をはじめ、一六名の先生方を迎えて六名の教職員で新しい年度がスタートし、約二ヶ月が経ちました。

四月七日の入学式で新入生一九六名が入学し、二年生一九八名、三年生一九二名の合計五八六名の生徒が現在大湊高校の校舎で勉強に、部活に頑張っております。そんな生徒たちの活躍を紹介したいと思います。

■**平成一七年度の進路状況**

去る三月一日、総合学科として二回目の卒業生一六七名が大湊高校を巣立っていきました。人文科学・自然科学・情報表現・介護福祉・スポーツと五系列に別れて勉強してきた二期生たちの進路について紹介いたします。

進学に関しては、昨年より一%増の六七%の生徒が進学しました。大学進学者の五八%が推薦入学、四二%が一般受験での合格となっています。今年から大学入試センター試験が、田名部高校で受験できるようになり、泊まりがけでの受験の必要がなくなりました。受験時の負担が少しでも軽くなることにより、さらに実力を発揮できることと思われます。

短大合格者の約九割が「幼児・保育」「福祉」「食物栄養」に集中しています。専門学校では医療系専門学校が人気です。将来の就職を見据えて、資格取得に有利な上級学校への進学率が年々増えています。

一方就職は、県外求人が増加傾向にあり、県外希望の生徒や途中で県外へ変更した生徒は順調に就職を決めることができました。むつ下北管内、県内希望の生徒は求人が少なく、就職活動をしたくてもできない状況が続きました。少ないながらも自分の希望する職種の求人が来るたびに、積極的に準備をして試験に臨み、頑張りました。

公務員関係では、今年は自衛隊の受験者が例年より少なかったものの、女子が三名合格するなど健闘しました。採用予定数が多かったことも合格の要因の一つといえますが、早い時期から目標に向けて勉強してきた成果が確実に出た結果だと思います。

平成一七年度卒業生進路状況（四月一八日現在）

《進　学》

4年制大学 国公立	4年制大学 私立	短期大学 私立	専門学校	専門学校 看護・医療	その他	計
7	28	14	58	4	2	113

《就　職》

管内就職	県内就職	県外就職	公務員	自衛隊	その他	計
20	2	17	3	7	5	54

■**大高祭　～ねぶた製作～**

本校の伝統行事のひとつ『大高祭』まであと一ヶ月半、今年で五九回を迎えます。

同窓生の方にも在校生の方にとっても楽しみの一つとしてねぶた運行が真っ先に挙げられると思います。各クラスから集まったねぶた係が、放課後の時間帯を利用して製作にあたります。一、二年は扇型、三年は人型のねぶた製作に取り掛かっています。

今年も、心に残る大高祭になることと思います。

《部活動紹介》

【男子110メートル障害決勝】15秒23の大会新で優勝を飾った井戸端昂介（大湊）

■**陸上競技［男子］**

▽学校対抗　優勝　▽四百㍍リレー　①大湊（大会新記録）▽千六百㍍リレー　④大湊　▽百十㍍障害　①井戸端（大会新記録）▽三千㍍障害　⑥河野　▽百㍍　②塚田　▽八種　①澤田　▽走高跳　①鶴田　③菊池　▽走幅跳　①鶴田　⑥柳谷　▽棒高跳　①南元　④鳴海　⑤畑中　▽二百㍍　④鶴田　⑤坂本　⑥塚田　▽三段跳　④澤田

（以上、東北大会出場）

■**陸上競技［女子］**

▽四百㍍リレー　⑥大湊　▽四百㍍　⑤松谷　▽走高跳　④戸草　▽八百㍍　②對馬　▽砲丸投　⑥赤石

（以上、東北大会出場）

■**ヨット競技［男子］**

▽FJ級ソロ　②大湊A　④大湊B　⑤大湊C　▽FJ級デュエット　②大湊　▽SH級SRソロ　①大湊

■**ヨット競技［女子］**

▽FJ級ソロ　①大湊A　②大湊D　③大湊C　④大湊B　▽FJ級デュエット　①大湊

（以上、東北大会出場）

■**春季県高校野球選手権**

▽準決勝（五月二七日）

								計
大　湊	0	0	0	3	0	0	0	3
八工大一	4	1	0	3	1	0	3	12

（七回コールド）

▽三位決定戦

										計
大湊	1	0	1	0	4	1	0	0	1	8
東義	2	0	1	0	0	2	0	1	0	6

（東北大会出場）

同窓会の皆様、これからも大湊高校生の活躍をあたたかく見守っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔同期会だより〕

■**第五期（昭和28年3月卒業）**

今年もあじざき海外旅行会を実施しました。成田を六月二四日に発って、フィンランド、ノルウェー、デンマークを訪れ、三一日に成田着。参加者は大湊高等学校同窓会員一二名、田名部高校と五所川原高校の同窓会員がそれぞれ一名の計一四名。写真はヘルシンキのシベリュース公園で。

（畑中皓二）

■**あじざき会（第五期同期会）**

第二回　白涛展

○会期　一〇月二五日～三一日
○会場　むつ松木屋四階
○出展者予定　約二五名
○出展内容　洋画・日本画・書道　華道・工芸・手芸・洋裁他

編集後記

○同窓生にとって東京支部の活動がもっと身近なものとなってほしい。横の繋がり（同期）の広がりが縦の繋がり（同窓）に結びつき、母校を共にする仲間が増えていってほしい。同期会の幹事さん、関東地区在住者の名簿をぜひ事務局に提供を。

○『なかま』の紙面構成を二面から四面に変えて二年目。学生時代にクラブ活動で英字新聞を作った経験はあるものの、新聞編集はむずかしい。見苦しい点が多々ありましょうが、今後工夫するということでご容赦を。

発　行　青森県立大湊高等学校
　同窓会東京支部
編　集　富澤千里（16期）
題字デザイン　畑中皓二（5期）
事務局　〒二七三―〇〇四一
　千葉県船橋市旭町
　六―三―一―一二一〇
　局長　蝦名守一（16期）
　☎〇四七（四三八）七八五六
印　刷　有限会社戸田印刷